

二つの型

宮本百合子

青空文庫

服装に就いての趣味と云つても、私は着物の通人ではないから、あれがいいとか、こんな色合は悪いとかは云えない。要するに着ているそのひとに合つていれればいい。種々変つた型、色、等があつて差し支えないということは、恰も同一の個性が人間の中に見出されないのと同じわけではない。唯、この際、自分にあてはまつたものが、そう簡単に易々と見附かるかどうかと云うことは云える。そのために衣裳好みということが起るのであるならばさし支えないが、徒らに高価なものを身に附けたりして通がつたりするのは、却つてその人を落すだけである。

京都へ行く度びに私がよく思うことは、京都の女は、凡てが季節などに支配されているということである。セルの季節になると、一様にセル物の姿が見られる。同じ様な意味で、縞柄とか模様、色彩などがなんとなく同一傾向のものであつて、東京の電車の中で見る様な、突飛な服装をしているものはついぞ発見し得ない。強いて云えば京都風というもので統一されてしまつてゐる。

所が、東京は全く雑然としてゐる。お召の側らかたわにけばけばしい洋装があるかと思えば、季節外れの衣裳を平気で身に附けている者がある。だから、京都は統一はあるが婦人の個

性は失われている。東京は統一がない代りに、各自その人の個性がはつきり掴み取れる様な服装をしている。土地によると二つの型がはつきりと分類されていて面白いと思う。

それから、段々職業婦人というものが多くなつて、女の外出ということが繁くなるに従つて、一つは綺麗ではあるが二三年でもう棄ててしまふ安もの——棄ててしまつても何等惜しくないのを着る者と、他は高価ではあるが永い間着て悪くならないつまり「持ちのいい」ものを着る者という風に分れて行くであらうし、現在そうなつていと思う。派手に着飾つて見た眼には美しいが、指をふれて見ると碌なものじゃないという傾向と、じみな視覚にはそんなに衝動を与えない代りに丈夫で永持のする高価なものという二つの服装分類は、そのどちらかに依つて、外出する機会を多く持つている者か、内に許り閉じこもつている人であるかが解るだろうと思う。

私も、たんまりお金があつたらいいものを着たいわけだが、ないから古い型で間に合わしているので、従つて最近流行の衣裳ということについては、少しも解つてはいない。

〔一九二七年十一月〕

青空文庫情報

底本：「宮本百合子全集 第十四巻」新日本出版社

1979（昭和54）年7月20日初版発行

1986（昭和61）年3月20日第5刷発行

初出：「エレガント」

1927（昭和2）年11月特輯号

入力：柴田卓治

校正：米田進

2003年5月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

二つの型

宮本百合子

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>